

## 2015 年度ラウンドテーブル・テーマについて（案）

### 1. 2014 年度実績

#### （1）テーマ グローバルサプライチェーンのための国際物流 IT 戦略

- ① 課題認識（メーカー、ロジスティック、NACCS）
- ② ロジスティックス IT 戦略の現状と将来像
- ③ 国際物流情報連携の IT 基盤と活用

#### （2）開催日時 2014 年 9 月 3 日（水）10：00～17：00

#### （3）開催場所 IBM 箱崎ビル 7 階 ボードルーム

#### （4）参加者数 21 名（事務局含む）

#### （5）提言内容

##### ① グローバル化推進においてはぶれない視点が必要である

グローバルビジネス（GB）、グローバルサプライチェーン（GSCM）、グローバルロジスティックス（GL）の課題・要件は異なる。混同すると、取引先（サービス提供先）や社内部門間の調整に歪みを生じ、全体最適化が困難となる。

##### ② 荷主の要求はグローバルサプライチェーンの可視化である

荷主の GL への要求は GSCM のための可視化である。そのためには、ロジスティックス企業や NACCS への要求のみならず、GL 情報を GSCM に活用する荷主自身の社内システムも重要である。

##### ③ 貿易手続プラットフォームは関連企業の連携によって構築するものである

貿易手続プラットフォームは NACCS だけが提供するものではなく、NACCS、ロジスティックス企業、IT ベンダー、および荷主のシステムとの情報連携で形成される。

### 2. 2015 年度のラウンドテーブル・テーマ（案）

#### （1）テーマ

「NACCS の情報活用による GSCM 情報連携（共有）基盤構築の有用性について」

#### （2）議論のポイント

- ① NACCS 情報の活用可能性
- ② 輸出入者間のコミュニケーション改善
- ③ 荷主・フォワーダー間のコミュニケーション改善
- ④ 業務効率化への貢献

（資料：GSCM情報連携（共有）基盤構築の紹介）

#### （3）参加者候補

荷主企業（メーカー、商社）、物流企業、IT企業、貿易手続関係企業・団体、他

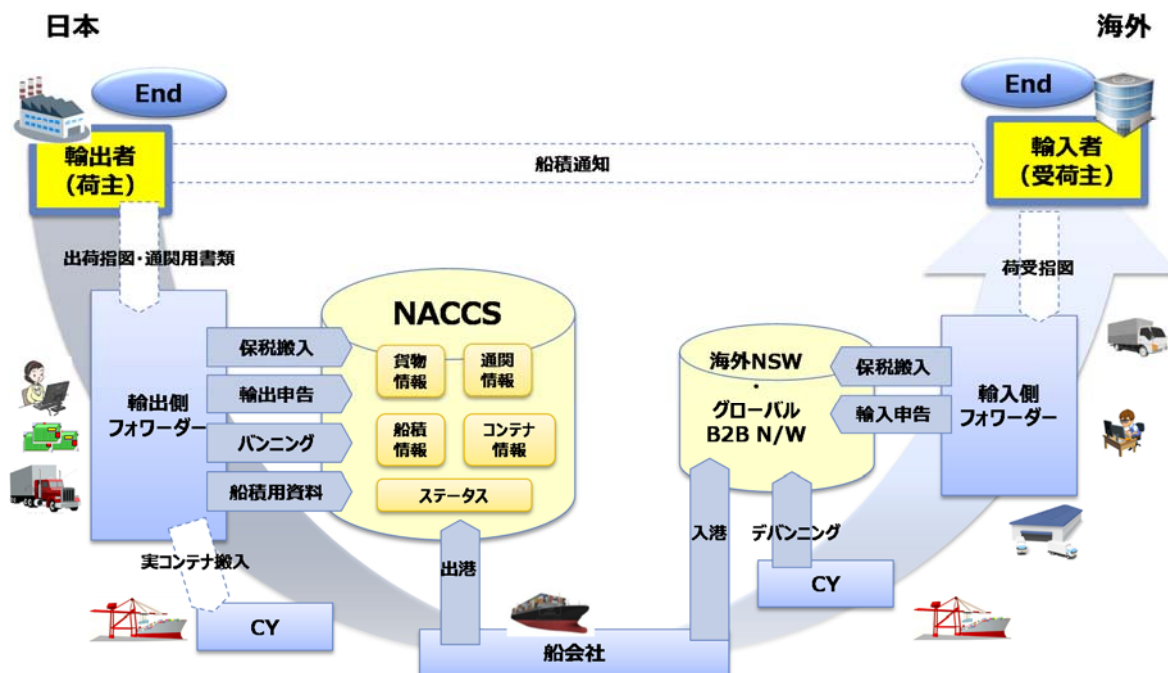
#### （4）プレゼン

- ① NACCS NACCS情報活用に関する計画（iNACCS?）
- ② NTTD GSCM情報共有基盤構築のFSの進め方

以上

## 日本からの輸出 グローバルSCM情報共有の現状

日本からの輸出におけるグローバルサプライチェーン情報連携の現状を以下に示す。

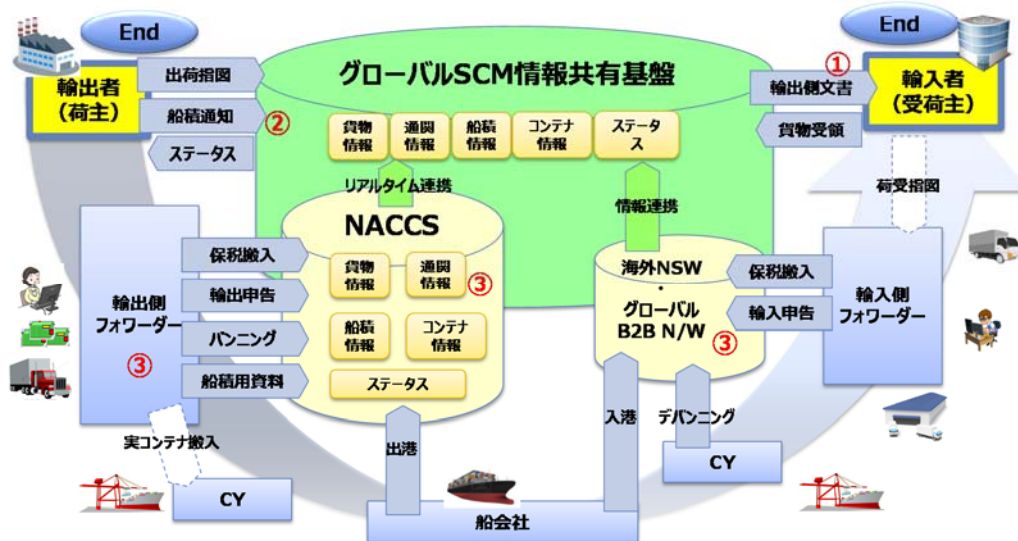


## 日本からの輸出 グローバルSCM情報共有基盤の目指す姿

グローバルサプライチェーン情報連携のためのプラットフォームは、End-to-Endの荷主間貿易手続きにおける各イベント情報の迅速な共有\*を目的とし、下記の主要件の達成を目指したい。

- ① 荷主ペナフィットの実現：荷主の欲しい形（粒度・タイミング等）で情報取得できること。
- ② 個別インタフェースでなくシングルインタフェース：荷主から見てワンストップサービスであること。
- ③ 既存資産の活用：荷主をはじめとする関係者が現在持っている資産を最大限活用できること。

\*情報共有により目指す効果は、「手続き効率化、省力化、スピードアップ、属人性排除」により測定するものとする。

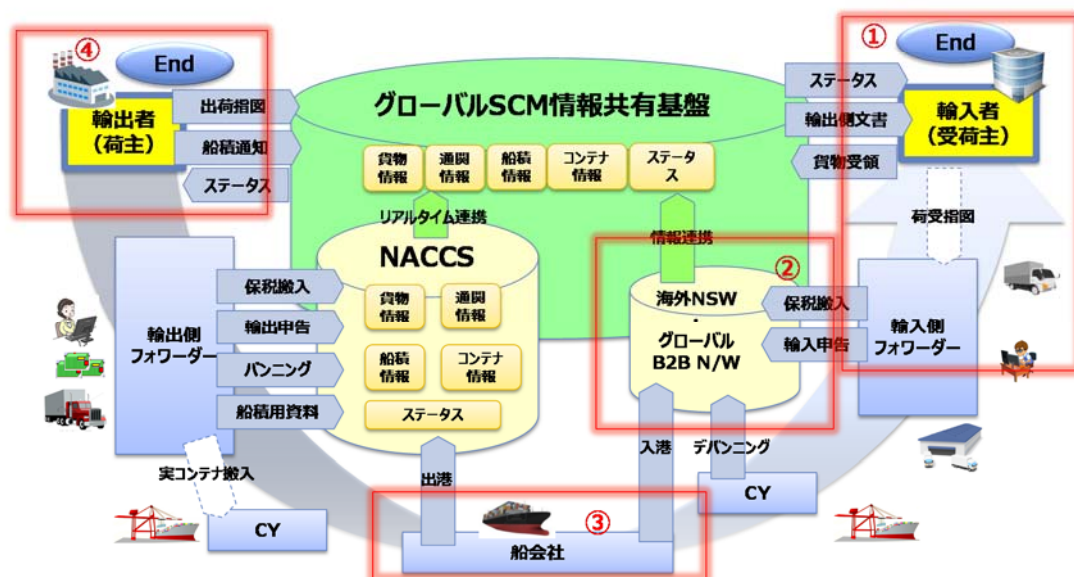


## 日本からの輸出 SIPSラウンドテーブルでの議題案

議論候補①：輸出入者間の情報共有により、主に輸入側にどのような用途や効用が考えられるかを議論する。  
 議論候補②：PAAメンバーを含めた海外NSW、グローバルB2Bネットワークとの連携による想定効果、接続に向けた方策・課題  
 議論候補③：船会社からみてグローバルSCM情報共有基盤がどのような関わり方がありうるか。  
 議論候補④：化学メーカーの他に、どのような業界が、グローバルSCM情報共有基盤の活用に適しているかと考えられるか。

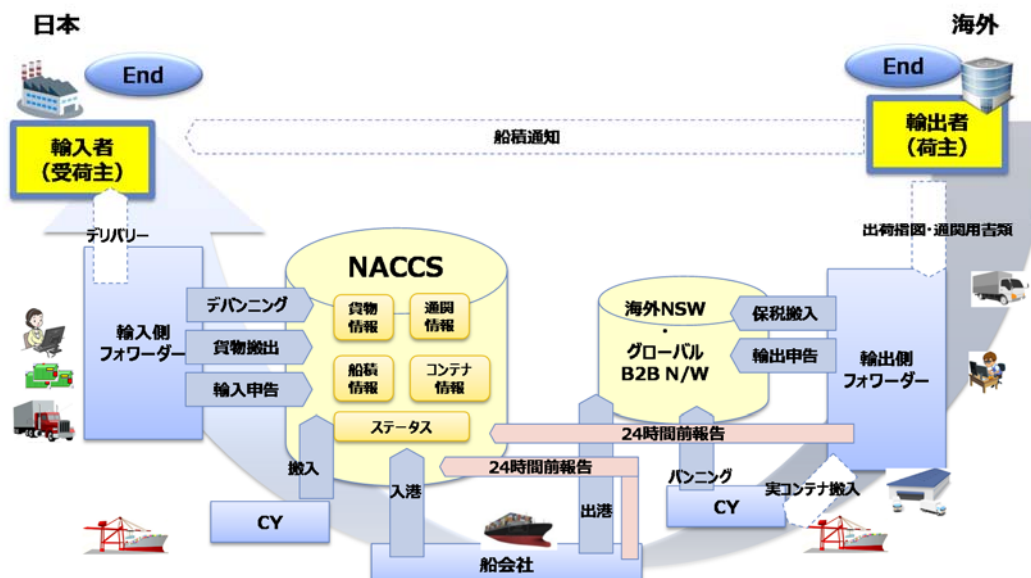
想定参加者

荷主企業（メーカー、商社）、  
物流企業、IT企業、NACCSセ  
ンター、JASTPRO



## 日本への輸入 グローバルSCM情報共有の現状

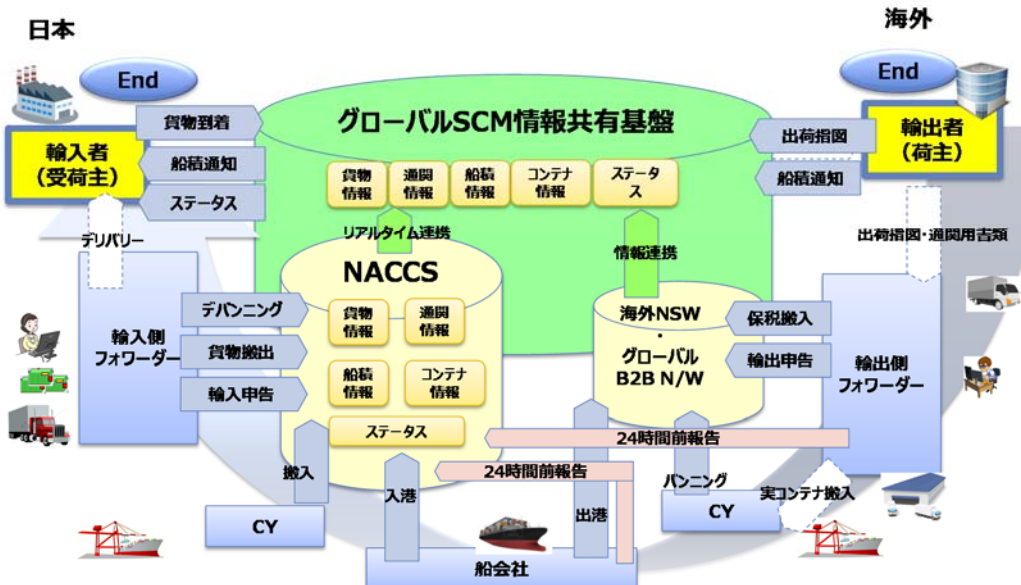
日本への輸入におけるグローバルサプライチェーン情報連携の現状を以下に示す。



## 日本への輸入

## グローバルSCM情報共有基盤の目指す姿

日本への輸入についても、同じように基盤の目指す姿を以下に示す。



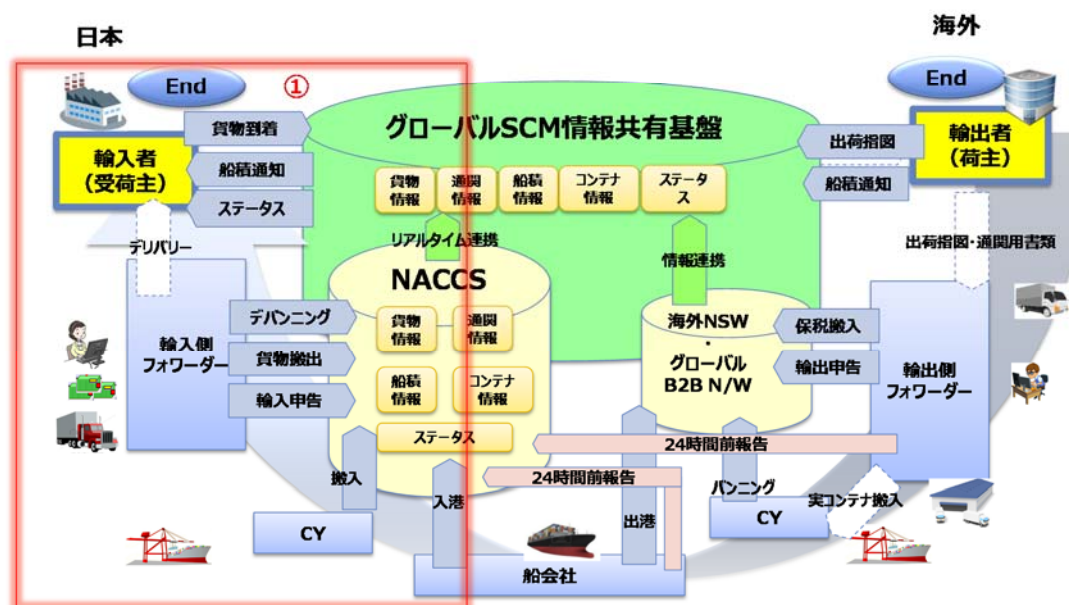
## 日本への輸入

## SIPSラウンドテーブルでの議題案

## 議題候補①：

日本への輸入における輸出入者間の情報共有により、主に輸入側にどのような用途や効用が考えられるかを議論する。

→ 想定参加者：荷主企業（メーカー、商社）、物流企業、IT企業、NACCSセンター、JASTPRO





## 2015年度検討会の流れ（案）

